2020年9月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第524号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体136円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

本の街と大学の連携 ☆――――///☆★☆

―本の街・神保町を元気にする会、明治大学リバティアカデミー共催公開講座「本の街・神保町で考える」10年の軌跡―

文・飯澤文夫（明治大学史資料センター研究・調査員）

第9回（2019年）講座風景。八木壯一氏の司会で、酒井健彦氏（一誠堂書店）、諏訪雅夫氏（悠久堂書店）、橋口侯之介氏（誠心堂書店）によるパネルディスカッション「古書店ー昔語りの神保町」

10年目を迎えるはずであったが…

2011年に始まった表記の公開講座は、毎年、本の街・神保町が「東京名物神田古本まつり」と「秋の吉例！本の街の本まつり 神保町ブックフェスティバル」で湧き立つ10月から11月にかけて、隔週土曜日の午後に明治大学駿河台キャンパスで開講し、今年で10年目になる。

受講者の多くはリタイアした社会人で、平均年齢は60歳を超えそうだが、時に神保町大好きという女子大学の学生が混じることもある。ともあれ受講者は熱心で、出席率も発言率も大学の授業より高く、6～7年越しのリピーターもいる。

今年のテーマは、「現代マンガは神保町から始まった！？」（全5回、各90分、受講料5千円）である。戦後マンガの草分けである山川惣治の絵物語『少年王者』は、小学館社長相賀徹夫氏の企画で集英社から刊行された。その後、手塚治虫、寺田ヒロオ、藤子不二雄ら名だたる新人を育成した『漫画少年』（学童社）、独自性で一時代を画した伝説の劇画雑誌『ガロ』、『少年マガジン』（講談社）と同日発売で競い合ったわが国初の少年週刊誌『少年サンデー』（小学館）、そして、史上最大の発行部数653万部を誇った『少年ジャンプ』（集英社）など、数多くの雑誌がこの街から生まれている。近年は明治大学米沢嘉博記念図書館が開設され、東京国際マンガ博物館も構想されている。日本マンガ史の中の神保町を、マンガ雑誌編集長や第一線の研究者を迎えて語り尽くそうという、中身の濃い、この街ならではの話題性に富んだ企画である。

ところが、準備万端整い、いよいよ広報という時になって、再発の様相を呈する新型コロナウィルスの感染拡大により、中止を余儀なくされてしまった。残念でならない。

しかし、これまでの道のりは、もう「歴史」が形成されつつあるといえるのではないかとの、本誌編集者岡安清さん言葉に励まされ、前史である明治大学リバティアカデミー（以下「リバティアカデミー」）公開講座「古書の世界」と共に振りかえってみたい。

大学の地域貢献としての公開講座

リバティアカデミーは1999年に、大学の教育・研究成果を継続的に社会に開放し、市民の学習支援や職業能力の再開発の向上に貢献することを目的に設置された生涯学習、地域連携機関である。今では年間400を超える講座を開設し、2万人近い受講者を受け入れている。

リバティアカデミーが開設された翌年の2000年、本の街に立地する大学の地域貢献という考えから、講座「古書の世界」を開講した。神保町の古書店主らを講師に招き、古書の愉しみや流通、鑑定・評価法、本と収集家にまつわるエソードを披歴してもらおうというものである。

この時にコーディネーターとして協力いただいたのが、神保町の生き字引でミスター神保町と称されていた日本古書通信社元社長八木福次郎氏である。講座は現在と同じく全5回で、神保町の古書店主に加え、講談師で古書イッカク堂の店主でもあった田辺一鶴氏、江戸・東京名所図会などの収集家として知られる靖国通りのカバン店レオマカラズヤ社長の木内武郷氏、神

保町に仕事場を置く作家の逢坂剛氏などが教壇に立ち、稀覯書を惜しげもなく見せていただくなど、興味深く充実したものであった。

講座は2006年まで7年間続き、招いた古書店主は延べ20名を超えた。八木氏の意向でコーディネーターは2年目から東京都古書籍商業協同組合神田支部長に依頼し、より地域性が強まった。6～7年目は書評家の岡崎武志氏にお願いした。

第6回（2016年）　すずらん通りの「ティーハウス タカノ」を貸し切ってのフィールドワーク。香り高い紅茶とクッキーをいただきながら、店主の高野健次氏から、紅茶の歴史、文化から美味しい紅茶の淹れ方まで講義を受け、贅沢なひと時を過ごした。

本の街・神保町を元気にする会の結成

この街で生業を営む古書店、新刊書店、飲食店、大学などの法人（現在は22法人）と個人が集って「本の街・神保町を元気にする会」（以下「元気にする会」）が結成されたのは2006年である。会の趣旨は会名に端的に示されているように、街の活性化のために、本に関する企画・イベントの開催、「Book Town・じんぼう」による情報発信、街づくりへの寄与などである。亀井忠雄会長（三省堂書店社長）、柴田信事務局長（信山社岩波ブックセンター社長）の下に発足したが、柴田氏は2016年に急逝され、現在は八木壯一氏（八木書店ホールディングス社長）が第二代事務局長を務めている。

なお、「本の街・神保町」とは、柴田氏が定義した「世界にも例を見ない本の一大コンビナートで千代田区の地場産業」として、古書店ほか700近い出版関連事業所が集まる、神田神保町、西神田、三崎町、神田猿楽町、神田駿河台、神田小川町、神田錦町、一ツ橋一帯を総称している。

その柴田氏から元気にする会と明治大学で連携し、アカデミックで発信力のある企画ができないかと打診があったのは、2010年のことである。元気にする会の実務者や専門家と、明治大学の研究者がコラボし、共催でリバティアカデミーの公開講座とすることが直ぐに合意された。神田古書店連盟と、後に共立女子学園にも協力を要請し、コーディネーターは「古書の世界」に関わった経緯から筆者が引き受けることにした。

神保町の奥深さを伝える

講座は少なくとも5年は継続し、テーマは本とその周辺について広く取り上げていくことでスタートした。初年度（2011年）のテーマ「本の一生」は、いわばその序論として、元気にする会理事で歌人小高賢としても名高い講談社元取締役の鷲尾賢也氏が発案したものである。綿密なプランで、講師との折衝も行き届き、さすがは名編集者と感服させられた。ところが2014年2月、神保町内に構えていた個人事務所内で突然倒れ、69歳の若さで帰らぬ人となってしまった。その後は、小学館元取締役で、評論家・児童文学研究者の野上暁氏（本名上野明雄）が、刺激的な企画を次々と打ち出し、現在に到っている。

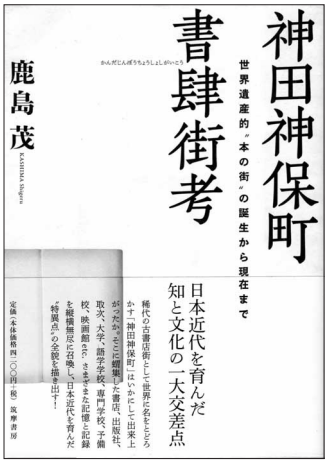
過去9回のテーマと概要を振りかえってみたい。

▽第1回（2011年）「本の一生」。読者の存在、本の企画の発想、編集、装訂・印刷・製本、取次、販売、第二の人生としての古書、本の未来と本のすべてを通観した。

▽第2回（2012年）「本と映画と神保町」。神保町が映画館発祥の地であったことは案外知られていない。錦輝館跡地など街歩きも行った。

▽第3回（2013年）「神保町と近代出版100年」。有斐閣、三省堂書店、岩波書店など創業100年超える出版社、書店の歩みから神保町に見る近代日本の出版史を考えた。

▽第4回（2014年）「本の街・神保町の人物誌」。黎明期に神保町を拠点にした名士たちや、古書店や文芸編集者と付き合いのあった作家の姿を浮かび上がらせた。



鹿島茂著『神田神保町書肆街考－世界遺産的"本の街"の誕生から現在まで』（筑摩書房、2017年）

▽第5回（2015年）「戦後70年古書と神保町」。幸運にも戦災に遭わず戦中・戦後を生き抜き、今も江戸が生きづく神保町の戦後を俯瞰した。

▽第6回（2016年）「本の街の食文化」。神保町は豊かな食文化の街でもある。神保町中華街の形成、カレーの聖地の誕生など、この街ならではの食の魅力を味わった。

▽第7回（2017年）「神田神保町書肆街考－世界遺産的“本の街”の誕生から現在まで」。申すまでもなく明治大学鹿島茂氏の大著である。著者自身に紐解いてもらった。

▽第8回（2018年）「本と読者をつなぐ－今、出版社のPR誌はこんなに面白い」。『図書』『本の窓』『ちくま』など各社PR誌編集長から熱い思いを伺った。明治大学中央図書館ギャラ

『神保町が好きだ！』第8号（2014年）特集「神保町の人物誌―神保町を歩いた文士たち、書店主が会った作家たち他」、第13号（2019年）特集「いかにして〝本の街〟はできたのか。―するっとおさらい！神保町の駆け足150年 なるほど神保町！文化・エンタメよもやま話」

第4回（2014年）講座で共催者として挨拶する柴田信氏。

リーで展示会も併催した。

▽第9回（2019年）「ものがたり神保町の150年」。街の地名になった江戸時代の神保屋敷の様子から本の街の成立、現代までを時代背景やエピソード、エポックでつないだ。

元気にする会の広報誌である年刊『神保町が好きだ！』は2011年の第5号から野上氏が担当し（2019年、第13号からは風讃社「ナビブラ神保町」編集部校條真氏）、講座テーマに合わせた特集が組まれている。資料性も高く大好評で、講座テキストとして活用している。

講座から生まれたものとこれから

講座から生まれたものに、八木福次郎氏が「古書の世界」のご自身の講義内容をまとめた『神保町今むかし』（日本古書通信社、2002年）がある。「本の街神保町で考える」では、第1回の明治大学土屋恵一郎氏「人はなぜ本を読むのか－読者の存在、読者としての学生」と、第3回の同伊藤氏貴氏「＜よむ＞いとなみと神保町の魅力」を『図書の譜　明治大学図書館紀要』第18号（2014年）に収録した。受講者から希望の大きい講義録の作成が今後の課題である。

冒頭で記した女子学生で、「古書の世界」と「本の街・神保町で考える」を受講した二人は、共に神保町をテーマにした立派な卒業論文を執筆し、希望をかなえて出版社に就職した。講座で得た知見や人脈が役立ったようである。嬉しいことだ。

コロナ禍もあり、今後のことは未定である。講座アンケートには、毎年、神保町の生の声が聞けて勉強になった、もっと深く神保町を知りたいとの感想や要望が寄せられている。どのような形であれ、人と本の街・神保町の幸せな出会いを促し、一人でも多くの人に足を運んでもらえるよう、大学が貢献できればと願っている。

柴田信さんとは亡くなる前日も電話で講座の打ち合わせをした。誰よりも神保町を愛し、その情熱と磊落な人柄で元気にする会を牽引し、筆者を督励された。改めて哀悼の意を表して稿を閉じたい。

＊

（いいざわ　ふみお／明治大学史資料センター研究・調査員）

新刊ダイジェスト

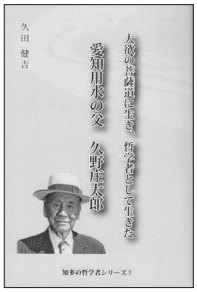
表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

『新型コロナウイルスと闘った、韓国・大邱の医療従事者たち』●李載泰（イ・ジェテ）編／クオン編集部訳

ソウル、釜山に次ぐ韓国第三の都市大邱で最初の感染者が確認されたのは2月18日である。同じ教会信者の集団感染であったことから爆発的に広がり、10日足らずで陽性者数が千人を超える韓国で最も深刻な状況となった。そこから2か月後の4月10日、奇跡のように新規感染者は0となる。国、市、近隣自治体、医師界、医師会、様々な立場の医療スタッフが結集し、総力を挙げて取り組んだ結果である。この時、最前線で患者たちに向き合い、未知のウィルスと闘った大邱広域市感染病管理支援団医師、大学病院長、コロナ生活治療センター医師、腎臓内科専門医、公衆保健医、陰圧集中治療室看護師、市医師会長、市医師会新型コロナ対策本部長など31名が、自らの行動と思いを、生々しく率直に綴り、緊急出版したものである。医師の使命感にも感動するが、親にさり気なく別れを告げ、任務を負うに足る能力を持つことを誇りとし、あるいは必要とされることを大きな喜びにボランティアの呼びかけに応募した看護師たち姿には心が揺さぶられた。テレビに映し出された医療派遣チームに20年前の中学同級生の顔を見つけ、子供に「母さんの友達」と自慢したと、人づてに連絡をもらったというエピーソードは素敵だ。韓国が迅速で組織的に取り組めたのは、医療従事者の献身も勿論だが、MERSや鳥インフルエンザを教訓に確立した強力な感染医療体制と医療機関共同協業事業にあることを忘れてはならない。（飯澤文夫）

◆1800円・四六判・257頁・**クオン**・東京・202006刊・ISBN9784910214085

『愛知用水の父　久野庄太郎 －大欲の菩薩道に生き、哲学者として生きた』●久田健吉著

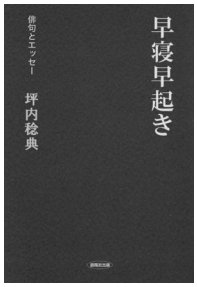


愛知用水事業は、戦前から干ばつによって、農業用水、飲料用水の水不足に悩まされてきた愛知県知多半島の人々が、久野庄太郎を中心として愛知用水運動を興したことをきっかけに、実現した。木曽川上流に水源となる牧尾ダムを建設し、岐阜県から愛知県尾張東部の平野及びこれに続く知多半島一体へ農業用水などを供給するというものである。起業者は愛知用水公団（現・水資源機構）で、昭和30年から昭和36年にかけて施行された。牧尾ダムで開発された愛知用水の水は、岐阜県八百津町の兼山取水口で最大水量毎秒30㎥が取水され、幹線水路延長112.1kmでもつて、知多半島に送られ、なお、その沖にある日間賀島、篠島、野島まで海底トンネルで送水されている。途中には、松野池、愛知池、三好池、佐布里池などの調整池が設けられた。

戦前、冨貴村長森田萬右衛門は知多半島にも三河の明治用水のように、木曽川から水を引くことを青年男女に話していた。青年庄太郎も用水の夢を抱いていた。戦後、庄太郎は愛知用水建設運動の中心人物になる。昭和23年同調者の安芸農林学校教員・浜島辰雄と一緒に「愛知用水概要図」を作成し、流域住民に対し愛知用水の構想を話して回る。愛知用水期成同盟会は農林省への説明し、岸信介、佐藤栄作を通じ、吉田茂首相に陳情する。首相は、食糧増産、経済発展、と大いに賛同し、話が進んだ。農林省も首相の意向を受けて予算をつけ、愛知用水が本格的に動き出した。愛知用水事業の実現は、庄太郎の活動が偉大であった。久野庄太郎を大欲の人、菩薩道に生き、哲学者であると、この書の著者は評価する。（古賀河川図書館・古賀邦雄）

◆1000円・四六判・187頁・**ほっとブックス新栄**・愛知・202004刊・ISBN9784903036342

『早寝早起き』●坪内稔典著



本書は、ごく近年に俳句関係の雑誌や新聞に掲載された著者の俳句とエッセーを集めたもの。最後の「わたしの十句」の俳句作品と自解文は書き下ろしである。

エッセーに目を向けると、「軽井沢する」「最初の昼寝」等身辺雑記のほかに「俳句は『遺産』ではない」「俳句は多義、川柳は一義」といった俳句論、著者の俳句の師匠にあたる伊丹三樹彦氏のこと等々内容は多岐に渡っているが、やはり研究対象である正岡子規に関するものが目につく。著者は、子規の書籍を常に持ち歩いている。電子書籍端末に青空文庫にある子規の作品をダウンロードしてあるのである。その端末で子規の『墨汁一滴』を読んでいた時、著者は、大食で知られる子規が「噛みに噛む」咀嚼の人であることに初めて気づいた。よく知る子規であるはずだが、自身が胃癌で胃を摘出し、出来るだけ噛むように心がけるようになって、改めて噛みに噛む人、子規を発見した、というわけである。自身の境涯によって様々に見える子規がいる、という、なんとも興味深いエピソードである。

さて本書が刊行された直前、著者主催の俳句グループ「船団の会」が活動を完結、二三〇名近い会員が〈散在〉した。さてこの後著者はどうするか。「俳句からきれいさっぱり足を洗うかもしれないし、またぞろ何かを始めるかもしれない。はっきりしているのは、いやなことは極力しないこと。駄目なものは駄目とはっきり言うこと。そして、可能な限り言葉について考えること。以上のような老人になりたい」と著者はあとがきに記す。（T）

◆1400円・四六判・169頁・**創風社出版**・愛媛・202007刊・ISBN9784860372927

『帝国日本における越境・断絶・残像　モノの移動』●植野弘子・上水流久彦編著

近代日本は海を越えて東アジアに侵出しました。そしてその統治下では多くの人やモノが行き交うことになります。「人の移動」と「モノの移動」の二分冊でそうした交流を考察するうち、本書は「モノの移動」編。東アジアの中で起きた色々な交流と変容を、モノを手がかりに考えていきます。

沖縄の近代建築を取り上げた論文では、沖縄戦によってほとんどが破壊されてしまった沖縄の近代建築について考えます。残ってはいなくとも戦前～戦中の那覇の街にはモダンな建物が建ち並んでいました。しかし今や眼にすることはできず、地元の人にとってもかつてのモダンな那覇の町並みは想像しにくいもののようです。それと比較して韓国や台湾には日本の植民地期の建物がまだ残されており、良くも悪くも植民地期を想起させるシンボルとなります。そうしたものが存在しない沖縄の近代認識は、琉球併合によって「近代化」された歴史を欠いているようにも感じられますし、日本の一部か琉球かのあいだでの認識の揺れもあり複雑な様相を呈します。その他にも三井物産の台湾での綿布販売の不調から、経営陣の台湾イメージがどのようなものであったのかまで考察する論文や、表札や粉食中華などテーマは多岐にわたります。同じモノであっても土地ごとの実情に合わせて独自の進化を遂げたり、おかれた条件によって異なった受け止め方をされたりと、一筋縄ではいかぬモノを介した交流の歴史がひもとかれます。（副隊長）

◆3000円・四六判・310頁・**風響社**・東京・202002刊・ISBN9784894892743

『本の雑誌の坪内祐三』●坪内祐三著

突然の訃報に耳を疑った人も多いと思うが、今年1月、評論家坪内祐三が心不全のため急逝した。『東京人』編集部を経て評論活動に入るが、1991年1月号に「角川文庫のアメリカ文学が僕の大学だった」で『本の雑誌』に初登場。以来、2020年1月号までに『本の雑誌』及び『別冊本の雑誌』に寄稿した原稿、出席した座談会、対談などを集成、再構成したのが本書。『鳩よ！』で連載していた「慶応三年生まれ　七人の旋毛曲り」で注目されて1996年に行われた伝説のロング・インタビューを皮切りに、雑誌、文学、編集、書店、古本屋など本についてあらゆる考察を展開している。座談会で昭和の雑文家番付を作ったり、名編集長養成講座の講師になったり、丸一日巨大書店で本を選んで遊んだりとユニークな企画が盛り沢山。「あとがき」の日付の件やゴーストライター、図書館など、繊細な目のつけどころにも感心させられる。　切なくなるのが追悼文をめぐる嵐山光三郎との対談。哀しみと衝撃に対して自分がどういう風に文章で応えられるか、一番文章が試されるのが追悼という嵐山に対して、文芸誌デビューが福田有恆の追悼だったと言う坪内祐三。こんなに早く逆の立場になってしまったのは残念だが、天で恩師の山口昌男氏と再会していることを祈りたい。巻頭にカラーで自著を含めた膨大な量の本棚の写真が掲載されているが、そのタイトル通り「いつまでも読書中」であるに違いない。（Y）

◆2700円・A5判・397頁・**本の雑誌社**・東京・202006刊・ISBN9784860114435

弊社のホームページでは半年前までの本誌バックナンバーをアップしております。また「新刊ダイジェスト」のバックナンバーもたくさん掲載してます。アドレスは下記の通りです。右記のQRコードもご利用ください。
URL：http://neil.chips.jp/chihosho/

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2020年7月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

【雑誌】

◆**Ｓ－ｓｔｙｌｅ**　０８　ｖｏｌ．６６８　プレスアート編　298mm×232mm　143頁　４５０円　プレスアート　［宮城］　978-4-503-22118-6　20/08

◆**会津人群像**　Ｎｏ．４０　阿部　隆一編　Ｂ５　168頁　１５００円　歴史春秋社　［福島］　978-4-89757-972-6　20/07

◆**GREEN　REPORT**　４８７　２０２０年7月号　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２５４６円　地域環境ネット　［埼玉］　978-4-909864-19-2　20/07

◆**かまくら春秋**　Ｎｏ．６０２　２０２０年6月号　伊藤　玄二郎編　Ｂ６　144頁　４００円　かまくら春秋社　［神奈川］　978-4-7740-0807-3　20/06

◆**道**　Ｎｏ．２０５　２０２０年7月夏号　木村　郁子編　275mm×210mm　74頁　１１４３円　どう出版　［神奈川］　978-4-910001-09-8　20/07

◆**くらしと教育をつなぐ　Ｗｅ**　Ｎｏ．２２７　２０２０年８／９月号　中村　泰子編　Ａ５　80頁　８３０円　フェミックス　［神奈川］　978-4-903579-99-3　20/08

◆**日産デザイン　伝統と革新　－ＡＸＩＳ**　8月号増刊　石橋　勝利編　Ａ４　80頁　９０９円　アクシス　［東京］　978-4-503-22106-3　20/07

◆**アーカイブズ学研究**　Ｎｏ．３２　日本アーカイブズ学会編　Ａ４　116頁　２５００円　岩田書院　［東京］　978-4-503-22116-2　20/06

◆**武田氏研究**　第６２号　武田氏研究会編　Ａ５　46頁　８００円　岩田書院　［東京］　978-4-503-22117-9　20/07

◆**仏事**　Ｎｏ．２３８　２０２０年７月号　奥村　昇編　Ａ４　104頁　１５００円　鎌倉新書　［東京］　978-4-503-22099-8　20/07

◆**月刊住職**　Ｎｏ．２６０　２０２０年７月号　矢澤　澄道編　Ａ５　197頁　１３６４円　興山舎　［東京］　978-4-908027-82-6　20/07

◆**子どもの文化**　Ｎｏ．５８９　２０２０年７／８月号　片岡　輝編　Ａ５　175頁　１４５５円　子どもの文化研究所　［東京］　978-4-503-22114-8　20/08

◆**ｔｈｅ座**　Ｎｏ．１０４　高橋　彩子編　Ｂ５　32頁　１０００円　こまつ座　［東京］　978-4-503-22103-2　20/07

◆**茶道の研究**　Ｎｏ．７７６　２０２０年７月号　三徳庵編　Ａ５　78頁　５００円　三徳庵　［東京］　978-4-503-22097-4　20/07

◆**セセデ**　ｖｏｌ．７１３　２０２０年８月号　朝鮮青年社編　Ａ４　48頁　４８２円　朝鮮青年社　［東京］　978-4-503-22115-5　20/08

◆**東京かわら版**　Ｎｏ．５６４　２０２０年８月号　佐藤　友美編　204mm×108mm　134頁　５４５円　東京かわら版　［東京］　978-4-503-22113-1　20/07

◆強くなる！シャンチー入門　所司和晴著　Ａ５　159頁　１８００円　双峰社［東京］978-4-904686-10-2　20/07

◆闇金クイーン　ＤＶＤ　十影堂パブリッシング編　四六　1頁　３９８０円　十影堂パブリッシング［東京］978-4-909611-37-6　20/07

◆パズルＢＯＸ　１４　ニコリ編　257mm × 148mm　121頁　１４００円　ニコリ［東京］978-4-89072-766-7　20/07

◆クロスワード春夏秋冬　ニコリ編　Ａ５　108頁　８５０円　ニコリ［東京］978-4-89072-485-7　20/07

◆毎日数独２　ニコリ編　四六　127頁　７００円　ニコリ［東京］978-4-89072-382-9　20/07

◆買いものは３日に１回　３日分×２の免疫力アップ献立　ー朝昼晩３日×２サイクル分の献立例＋レシピ＋買いものリスト　ベターホーム編　Ａ４　85頁　５００円　ベターホーム出版局［東京］978-4-86586-039-9　20/06

◆ＳＰＩＮＮＵＴＳ　１０６　スピナッツ出版編　Ｂ５　45頁　１３００円　スピナッツ出版［京都］978-4-904443-56-9　20/06

【絵本・児童書・学習参考書】

◆みみなり　ミノ　ヨシコ著　Ａ４　30頁　１５００円　ポエムピース［東京］978-4-908827-65-5　20/07

◆ティンガティンガ・アートであそぼう！どうぶつたちのじどうしゃレース　しまおか　ゆみこ文　アバシ　ムブカ絵　Ｂ５　55頁　２０００円　かもがわ出版［京都］978-4-7803-1097-9　20/07

◆ルリーナと風のお話　エビッチョ文　山田　ひろみ絵　215mm × 260mm　21頁　１３００円　創風社出版［愛媛］978-4-86037-293-4　20/06

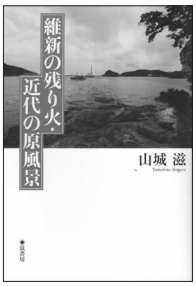
＊

新刊ダイジェスト（拡大版）――///★

『維新の残り火・近代の原風景』
●山城滋著

平成も終わりを告げる2018年、今から２年前はちょうど明治維新150年にあたっていた。この機に明治維新を振り返る様々な行事や催しが各地で行われた。本書は今に残る明治維新の痕跡（著者の表現を借りれば、「残り火」）を追って所縁の地を訪ね、「近代の原風景」を拾い上げていく。中国新聞朝刊に2017年から2018年にかけて連載したものを加筆、再構成したもので、独立した35のテーマはどこからでも読むことができる。

19世紀半ば以降の日本列島は内憂外患に激しく揺れる日本歴史上未曽有の時代であったのだが、第１章ではペリーの黒船来航をきっかけに日本人がグローバリゼーションの渦に巻き込まれていく過程を、蒸気船を例にして当時の先端技術や知識を幕府諸藩が必死に獲得しようとする光景から眺める。第２章では外国



艦船が日本列島の近海を頻繁に出没するようになると、日本人の意識の中にナショナリズムが目覚め始め、やがてはテロリズムに転化していく、その経緯を追う。第３章では明治維新の敗者側に焦点を当てる。そこには今もって続いている維新の勝者と敗者との確執があり、歴史の深い闇が垣間見えてくる。第４章は天皇を「求心点」に近代化を推し進める政府は、四民平等のもと国民皆兵による軍事体制を整備していく、それを様々な角度から迫る。

本書の中でとくに興味を引いたものを２、３拾ってみると、「黒船の日本人　サム・パッチこと仙太郎」は、樽廻船の乗組員の一人、安芸国瀬戸田出身の仙太郎が紀伊半島沖で難破、米国商船に救助された挙句、ペリーとともに帰国。数奇な運命をたどるのだが、仙太郎のような人物はジョン万次郎を想起するように当時大勢いたに違いない。

「勤王の果てに」では、京都で鳥取藩主の側近たちを尊攘派の藩士22人が暗殺した事件、いわば藩内テロ事件なのだが、維新後は勤王の志士として英雄視された。「勝てば官軍」ではないが、ナショナリズムもテロリズムも紙一重だということか。

「隊中様になった反乱兵、勝者の中の敗者」は、長州藩諸隊の一つ振武隊が戊辰戦争後に解散を命じられ、行き場を失った兵士が反乱するも討伐された。勝利した側の中で敗者が再生産していくという痛ましい事件である。明治維新をどう評価するか。確かに日本はアジアの中で先駆けて近代化に成功したことは幸福だったといえる。が、その代償としてあまりにも大きな傷痕を残すことにもなった。そのことを本書は教えてくれる。（Ｉ）

◆1800円・四六判・226頁・**弦書房**・福岡・202006刊・ISBN9784863292086

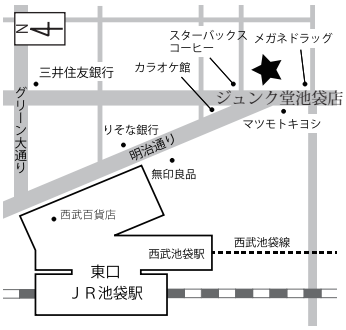
ジュンク堂書店
淳久堂書店

池袋本店
営業時間：月～土 / 午前10時～午後11時
日・祝 / 午前10時～午後10時

池袋であなたのふるさとに帰ってみませんか？

９階「ふるさとの棚」では、
地方・小出版流通センター扱いの
ご当地本を幅広く取り揃え、皆様の
お越しをお待ちしております。

〒171-0022
東京都豊島区南池袋2-15-5
TEL　03-5956-6111
http://www.junkudo.co.jp



売行良好書

期間：2020年7月15日～8月14日
※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

［出荷センター扱い］

(1)『少女たちがみつめた長崎』1600円・書肆侃侃房　(2)『ティッキ・ピッキ・ブン・ブン』1600円・東京子ども図書館　(3)『たぷの里』1200円・ナナロク社　(4)『海の上の建築革命』2400円・忘羊社　(5)『不登校は１日３分の働きかけで９９％解決する』800円・リーブル出版　(6)『旅をする本』1600円・ラグーナ出版　(7)『東京の森のカフェ』1300円・書肆侃侃房　(8)『廃寺のみ仏たちは、今　奈良県東部編』950円・京阪奈情報教育出版　(9)『びわ湖の畔のニホンミツバチ』2000円・サンライズ出版　(10)『ミツバチと暮らす』1700円・無明舎出版　(11)『占領と引揚げの肖像・ＢＥＰＰＵ１９４５－１９５６』2200円・弦書房　(12)『松江城』2000円・ハーベスト出版　(13)『九州・沖縄の巨樹』4000円・花乱社

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］

(1)『本の雑誌　４４７号』667円・本の雑誌社　(2)『東京かわら版　８月号』545円・東京かわら版　(3)『マルジナリアでつかまえて』2000円・本の雑誌社　(4)『本の雑誌の坪内祐三』2700円・本の雑誌社　(5)『疫神病除の護符に描かれた元三大師良源』900円・サンライズ出版　(6)『お砂糖とスパイスと爆発的な何か』1500円・書肆侃侃房　(7)『松江城』2000円・ハーベスト出版　(8)『ＤＣプランナー２級合格対策問題集　２０２０年度版』2700円・経営企画出版　(9)『四月の魚』1400円・書肆侃侃房　(10)『林檎貫通式』1500円・書肆侃侃房

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］

(1)『戦国・安土桃山時代の池田氏』900円・日本文教出版　(2)『米寿を過ぎて長い旅』1800円・海風社　(3)『フィールドで使える　図説　植物検索ハンドブック　埼玉２９９８種類　改訂新版』3000円・さきたま出版会　(4)『毒蛇ハブ』2500円・南方新社　(5)『小沢一郎　闘いの５０年』1800円・岩手日報社　(6)『出雲王国とヤマト政権』2250円・大元出版　(7)『旅先銭湯４』1200円・さいろ社　(8)『熱帯くだもの図鑑』2000円・編集工房東洋企画　(9)『廃寺のみ仏たちは、今』950円・京阪奈情報教育出版　(10)『北海道いい旅研究室１７』773円・海豹舎　(11)『不明の花』1500円・海風社　(12)『荘直温伝』3000円・吉備人出版　(13)『維新の残り火・近代の原風景』1800円・弦書房

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼今月号１面は、本の街・神保町を元気にする会と明治大学リバティアカデミーが共催する公開講座「本の街・神保町で考える」を長年支えてこられた飯澤文夫さんにご寄稿いただきました。ありがとうございました。本年はコロナ禍で残念ながら中止となるようですが、来年以降、開催時には事前に本誌にて告知記事を掲載したいと思います。神保町、ということに関連してのことですが、2007年に閉店するまで神保町のすずらん通りにあった弊社店売「書肆アクセス」の閉店前夜の店内写真を、今注目のプラットフォーム「note」に順次アップ中です。「神保町にあった【書肆アクセス】写真記録」と題して、時間が空いた時に少しずつアップしています。せっかく撮り溜めてある写真をそのままにしておくのはもったいないような気がしたもので、特に意味はないのですが、web上に保存して、誰もが見られるようにしておけば無駄にもならないだろうと思っただけのことです。今後も少しずつアップしていきます。お時間が空いた時にでもご覧いただければ幸いとするところです。「神保町にあった【書肆アクセス】写真記録」で検索していただくようお願いいたします。

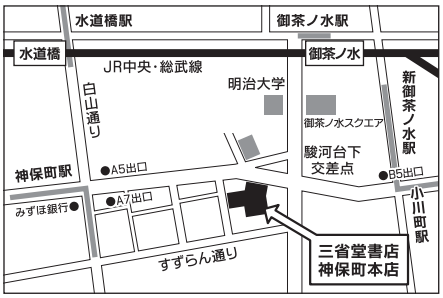
【郵便販売のご注文方法】

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店　営業のごあんない

神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。